

ペレニアルライグラス「夏ごしペレ」

小規模実証展示ほ

管理課（福島県西郷村）では、牧草の優良品種を紹介するためペレニアルライグラス「夏ごしペレ」を【実証展示ほ】において栽培しています。

【実証展示ほ】の見学・説明は随時受け付けていますので、お気軽にお問合せください。

見学などの問い合わせ先：0248-25 - 2738（本所企画調整部管理課）

実証展示ほ①概要（現在展示中）

展示品種：ペレニアルライグラス「夏ごしペレ」（越夏性に優れ年間収量が高い晩生品種）

対照品種：ペレニアルライグラス「ヤツユメ」

実証展示ほ造成時期：令和5年秋（播種日9月22日）

面積：1区画 4.2m² 品種毎に2区画

播種方法：畝間 30cm の条播

利用形態：放牧利用を想定した刈取調査を実施

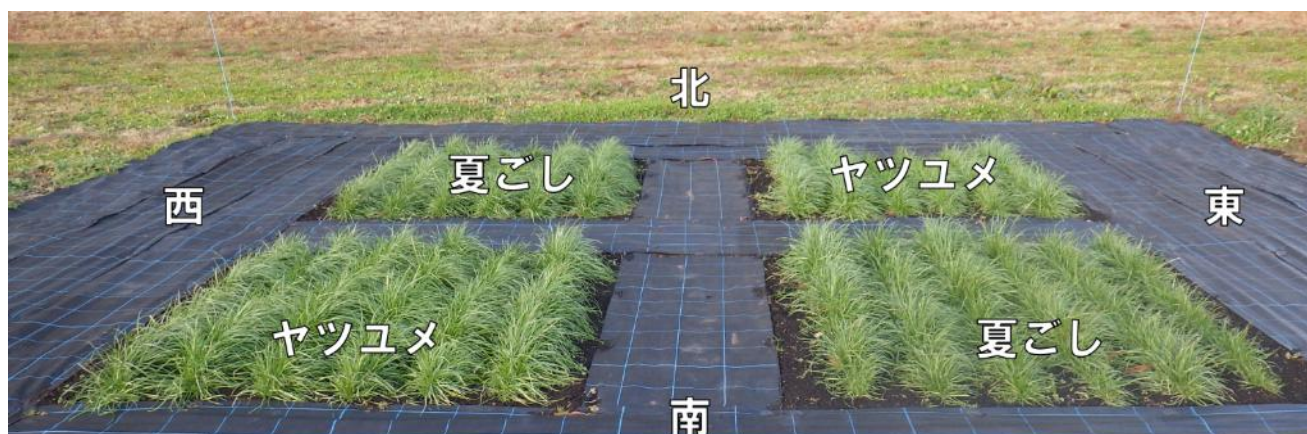
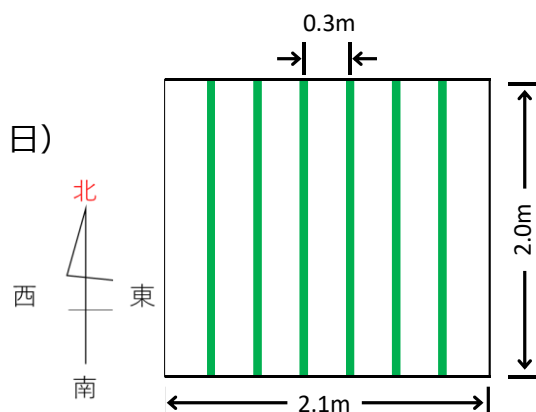


写真1．播種77日後の様子（令和5年12月8日）

令和 6 年度の状況

プロット内の 6 畦のうち外側 4 畦および内側 2 畦両端の 75 cm を除外し、地上 10 cm 高で刈り取りました。刈取った牧草を通風乾燥し、畦 1m あたりの乾物重量としました。10 月 21 日は夏枯れ被害が大きく、収量調査が困難だったため、プロット内の牧草を全て刈取り、畦 1m あたりの乾物重を算出しました。



写真 2. 利用 1 年目の 8 月 9 日の様子

夏枯れの被害は少ない状態でした。

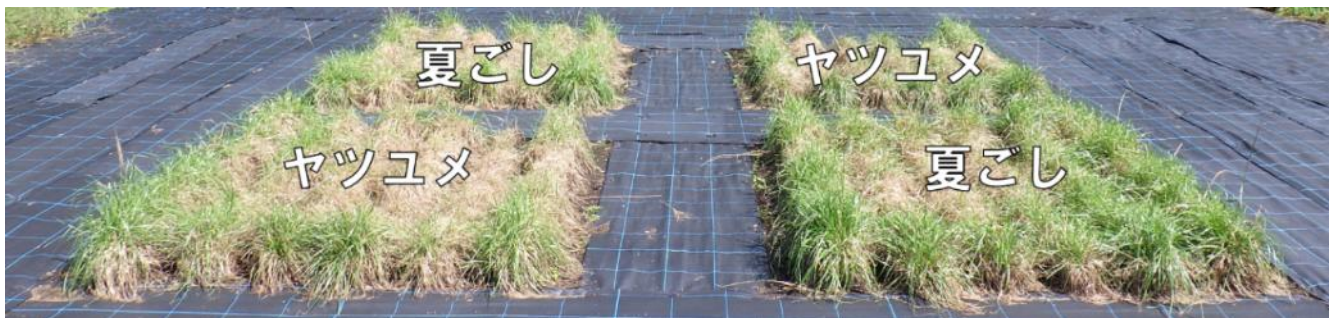


写真 3. 利用 1 年目の 9 月 4 日の様子

夏枯れが発生していましたが、周縁部は比較的被害が少ない様子でした。



写真 4. 利用 1 年目の 10 月 21 日の様子

枯死せずに生育していたのは、ほぼ「夏ごしペレ」の周縁部のみでした。

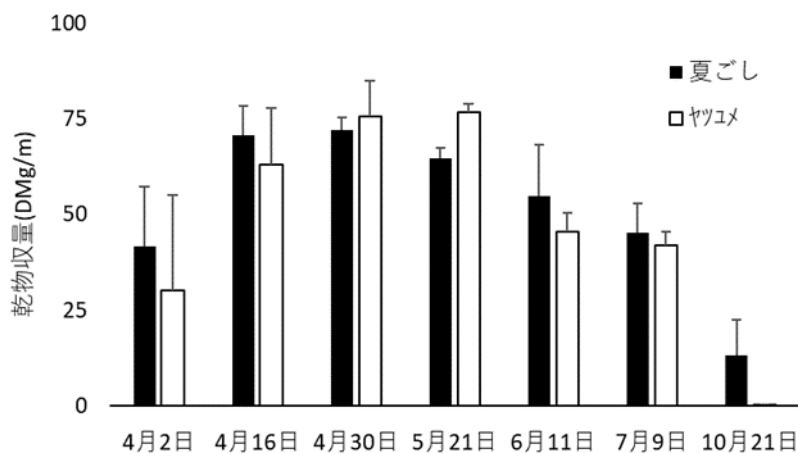


図 1. 乾物収量(エラーバーは標準偏差を示す)

白河の 2024 年の年平均気温は 1940 年の統計開始以来最も高くなりました。ヤツユメは夏枯れの被害が甚大で 10 月の乾物収量は極わずかでした。夏ごしペレにも大きな被害が発生しましたが、プロットの周縁部には枯れずに越夏した株がありました。

令和 7 年度の実証展示ほ

夏枯れ被害が大きく、実証展示の継続が困難になったため、従来の畝(緑の実線)は除草剤で枯殺し、新たに畦間に条播を行いました(青色の破線)。播種日が 10 月 24 日と遅くなったため、不織布をかけて管理を行っています。

